

時の人

「東京の父母でありたい」

松濤学舎新舎監

下村昌弘さん(61)

(佐賀市出身)



下村昌弘さん

7月1日に佐賀県出身者のための学生寮「松濤学舎」(東京都小金井市)の舎監に就任した下村昌弘さん(61)は佐賀市出身。長年の教員生活に区切りをつけ、新たなステージに立った。「佐賀の保護者の皆さんに

安心してもらえるよう、東京の父母のような存在でありたい」。寮母で妻の亜紀さん(60)とともに、古里を離れて学ぶ若者たちの成長を、温かいまなざしで見守る。

佐賀市出身。佐賀西高から広

島大に進み、国語教師として主に県立高で教えた。県教育委員会や文部科学省にも出向し、春に武雄高校長を退任。60歳を迎え、第二の人生を考えた時、この道を選んだ。「学校教育への未練はあったが、人生100年時代。違う角度から人材育成に携わりたかった」と、12年にわたって務めた前任の岩橋誠さん(75)から、寮運営の現場責任者と佐賀育英会の事務局長の役割を兼ねる舎監を引き継いだ。

着任後、寮生たちと触れ合う中で、「大学生は大人。ポテンシャルが高い」とリスペクトの念を抱く。寮の運営方針は、規則で厳しく縛るのではなく、一人一人を尊重することだ。「集団生活だからと厳しくするイメージではなく、相手を尊重し、安心安全にサポートしていければいい」と語る。寮生に話をする機会には、「相手の共感が得られるような話をしていきたい」と、自身の経験を交えながら語りかける。

県職員生活で最も印象に残っているのは、古川康元知事時代

に進められたICT教育の導入だ。2014年、他県に先駆けて始まった県立高校での1人1台学習用パソコン導入事業に、中心部署の一員として関わった。「大変だったが、あの経験があるから多少つらいことも乗り越えられる」と笑う。

自身も大学時代は弓道部で仲間と寝食を共にし、その絆は今も強い記憶として残る。「多感な時期に寝食を共にするのは、すごい影響がある。彼ら彼女たちも一生の経験をしているのだろうなと思う」と、寮生活の価値を強調。寮は女子学生の受け入れが進み、来年度にはほぼ同数となる。「学生が安心して勉強やサークル、アルバイトに打ち込める環境を整え、学生生活を充実させてあげたい」と抱負を語る。

プライベートでは、下村湖人や田澤義鋪など、佐賀とゆかりの深い小金井の歴史を学び直したいという。「国語教員として、国木田独歩の『武蔵野』なども、もう一度勉強したい」。知的好奇心は尽きない。

(佐賀新聞社東京支社・大橋 諒)

「私の好きなもの紹介」

松濤学舎

堺 珠 寧



私の好きなものや大切にしていることについて述べる。私には大きく三つのテーマがある。それは「動物」「音楽と旅行」、そして「挑戦」である。

まず一つ目は動物だ。幼い頃から動物が好きで、幼稚園の時に初めてハムスターを飼った。小さな体で回し車を走る姿や、口いっぱいに食べ物をはおぼる様子が可愛らしく、今でも鮮明に覚えている。小学校高学年になると、垂れ耳のうさぎを飼いはじめた。うさぎといえど耳が立っているイメージが強いが、我が家のうさぎは耳が垂れていて、その愛らしい姿にいつも癒

やされた。昨年亡くなってしまい寂しさは残るが、うさぎとしては長寿の11年間に共に過ごせたことは何よりの宝物である。将来、またペットを迎えるなら、犬を飼ってみたいと考えている。

二つ目は、趣味の音楽鑑賞と旅行である。音楽は生活に欠かせない存在で、家でも外出先でも聴くことが多い。特にK-POPと洋楽が好きで、中でもBLACKPINKは私に海外文化への関心を抱かせた存在だ。彼女たちをきっかけに韓国語を独学で学び、実際に韓国にも訪れた。韓国は日本から近く、初めての海外旅行先としても魅力的だと感じている。旅行は、自分の視野を広げてくれる大切な経験だ。大学2年生のときには、ボランティアサークルを通じて

筆者のプロフィール

出身地 佐賀市
出身校 佐賀北高校
大学 明治大学商学部4年

カンボジアとマレーシアを訪問した。そこで出会った人々は、物質的には豊かでもなくとも、家族や友人との時間を大切にしており、「貧困が必ずしも不幸ではない」ということを教えてくれた。また、昨年はフランス、スペイン、モナコ、イタリアを一度に巡り、多くの歴史的建造物を見学した。中でも、長年行きたいと思っていたサグラダ・ファミリアは特別な存在であった。完成前の姿は今しか見られないため、非常に貴重な体験となった。さらに、世界三大夜景のひとつとされるモナコの景色は圧巻で、海の美しさも印象深かった。

三つ目は挑戦である。私はこれまで、応援団長や生徒会、部活やサークルのリーダーを務めてきた。責任が伴い大変なことも多かったが、仲間をまとめ、最高の思い出を作るといふ思いでやり遂げた。最大の挑戦は、

大学進学を機に上京したことがある。コロナ禍という不安定な時期、多くの友人が地元に残る中で、東京で多様な経験を積み、視野を広げる道を選んだ。困難な状況でも挑戦を優先し、前向きに取り組むことで成長を目指してきた。来年はいよいよ社会人となる。私は4歳から続け、大学入学後はアルバイトとしても関わってきたそろばんの魅力を、世界にもっと広めたいと考えている。そのために、語学力や人間性をさらに磨き、これからも積極的に挑戦を続けていきたい。

